会報

第128号

公益社団法人
日本海海難防止協会

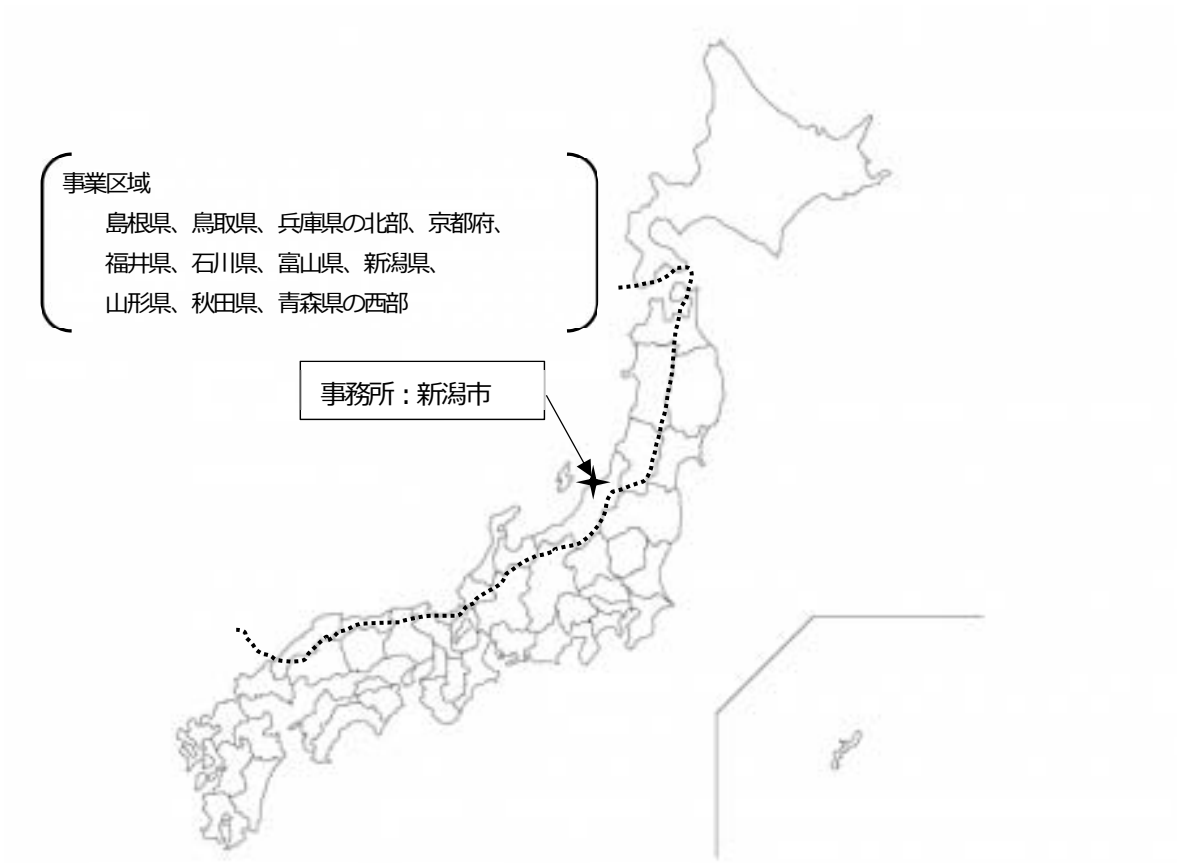
日本海海難防止協会は、本州日本海沿岸(山口県を除く)及び付近水域における、海上交通の安全に寄与するため、次の事業を行っております。

(1) 船舶の航行安全及び海難防止に関する事項の調査研究

(2) 船舶の航行安全に関する教育指導及び情報の提供

(3) 海難防止に関する事項の周知宣伝

(4) その他本協会の目的を達成するために必要な事業



【公益社団法人　日本海海難防止協会が行う事業区域図】

アクセス

○新潟駅(JR 信越線)から

徒歩　約 25 分、ﾀｸｼｰ利用　約 10 分、

ﾊﾞｽ利用　新潟交通　北ふ頭　約 20 分

北ふ頭　停留所下車徒歩約 5 分

○新潟空港から

ﾀｸｼｰ利用　約 20 分、ﾊﾞｽ利用　北ふ頭　約 20 分

○車

国道 113 号線竜が島郵便局前交差点を左折直進、

信号を一つ通過後右折し約 50m

目　　次

Ⅰ　事 業 報 告

Ⅰ－１　調査研究 1

１　能代港港湾計画改訂に伴う船舶航行安全対策調査 1

1-1　第１回委員会 1

1-2　第２回委員会 1

２　秋田県北部洋上風力発電事業計画に係る航行安全調査 2

2-1　第２回委員会 3

2-2　第３回委員会 3

３　境港(外港昭和南地区)大型貨物船入出港に伴う船舶航行安全対策検討 4

3-1　ビジュアル操船実験 4

3-2　作業部会 4

４　秋田港大型客船入出港に係る航行安全調査 5

4-1　第１回委員会 5

4-2　ビジュアル操船実験 5

５　酒田港港湾計画改訂に係る船舶航行安全対策調査 6

5-1　第２回委員会 6

６　秋田洋上風力発電事業計画に係る航行安全調査（海域分調査） 7

6-1　第１回委員会 7

Ⅱ　会 務 報 告

Ⅱ－１　業務日誌抄 8

Ⅱ－２　業務予定 9

Ⅲ　海保安全情報

海図「新潟港東部」がリニューアル 10

「海洋状況表示システム（通称：海しる)」の最新情報 11

冬季に備える ～安全な運航と海難を防ぐために～ 13

Ⅳ　寄 稿 欄

舞鶴の神様達（桑飼地区の神社） 16

Ⅴ　連 絡 事 項

会員名簿の変更 22

Ⅰ　事 業 報 告

Ⅰ－１　調査研究

１　能代港港湾計画改訂に伴う船舶航行安全対策調査

委員会の構成

（順不同・敬称略）

「委　員」

矢吹　英雄　　東京海洋大学　名誉教授
髙橋　　勝　　海上保安大学校　名誉教授
松田　洋和　　一般社団法人日本船長協会　副会長
高橋　福治　　秋田船川水先区水先人会　会長
西宮　公平　　秋田海陸運送株式会社　代表取締役社長
與語　奨太　　能代運輸株式会社　専務取締役
藤田　範生　　東北電力株式会社能代火力発電所　所長
加賀谷　弘　　秋田県漁業協同組合　代表理事組合長
齋藤　修市　　秋田県小型船舶安全協会　会長

「関係官公庁」

第二管区海上保安本部　交通部
秋田海上保安部
東北地方整備局　港湾空港部
東北地方整備局　秋田港湾事務所
秋田地方気象台

1-1　第１回委員会

(1)　開 催 日：令和元年９月 26 日(木)
(2)　場　　所：秋田市　ホテルメトロポリタン秋田
(3)　議　　題：
　①　港湾計画改訂の計画案について
　②　調査・検討の計画(案)について
　③　能代港の現況について
　④　航行環境について

1-2　第２回委員会

(1)　開 催 日：令和元年 12 月３日(火)
(2)　場　　所：秋田市　ホテルメトロポリタン秋田
(3)　議　　題：
　①　第１回委員会修正資料について
　②　航行の安全性について
　③　航行安全対策について
　④　報告書構成案について

２　秋田県北部洋上風力発電事業計画に係る航行安全調査

委員会の構成

（順不同・敬称略）

「委　員」

矢吹　英雄　　東京海洋大学　名誉教授
髙橋　　勝　　海上保安大学校　名誉教授
松田　洋和　　一般社団法人日本船長協会　副会長
高橋　福治　　秋田船川水先区水先人会　会長
西宮　公平　　秋田海陸運送株式会社　代表取締役社長
柏屋　　敬　　日本通運株式会社　秋田港支店　支店長
與語　奨太　　能代運輸株式会社　専務取締役
藤田　範生　　東北電力株式会社　能代火力発電所　所長
大森　　弘　　株式会社ダイニチ　専務取締役
加賀谷　弘　　秋田県漁業協同組合　代表理事組合長
佐藤　　優　　秋田県漁業協同組合　若美支所　若美地区運営委員長
鎌田　幸博　　秋田県漁業協同組合　北浦総括支所　北浦地区運営委員長
大髙　光晴　　能代市浅内漁業協同組合　代表理事組合長
田中　保則　　三種町八竜漁業協同組合　代表理事組合長
齋藤　修市　　秋田県小型船舶安全協会　会長

「関係官公庁」

第二管区海上保安本部　交通部
秋田海上保安部
東北地方整備局　秋田港湾事務所
秋田地方気象台
秋田県産業労働部　資源エネルギー産業課
秋田県建設部　港湾空港課
秋田県農林水産部　水産漁港課
秋田市産業振興部　産業企画課
能代市環境産業部　商工港湾課
男鹿市総務企画部　企画政策課
三種町　企画政策課

2-1　第２回委員会

(1)　開 催 日：令和元年９月 10 日(火)

(2)　場　　所：秋田市　秋田キャッスルホテル

(3)　議　　題：

①　ウインドファームの視認性について
　　(シミュレーションによる検討)

②　ウインドファームの航行影響について
　　(レーダー映像への影響)

③　洋上風力発電施設等の航行安全について

④　洋上風力発電施設等の維持管理について

2-2　第３回委員会

(1)　開 催 日：令和元年 12 月 18 日(水)

(2)　場　　所：秋田市　ホテルメトロポリタン秋田

(3)　議　　題：

①　洋上風力発電施設等の施工計画について

②　施工計画の航行安全について

③　航行安全対策について

④　報告書構成案について

３　境港（外港昭和南地区）大型貨物船入出港に伴う船舶航行安全対策検討

委員会の構成

（順不同・敬称略）

「委　員」

寺本　定美　　海上保安大学校　名誉教授
奥田　邦晴　　国立研究開発法人水産研究・教育機構水産大学校　名誉教授
松田　洋和　　一般社団法人日本船長協会　副会長
森脇啓治郎　　境水先区水先人会　会長
眞木　　崇　　境港海陸運送株式会社　海運事業部　次長
西原　延和　　株式会社上組　境港支店　支店長
景山　一夫　　鳥取県漁業協同組合　代表理事組合長
松本　美夫　　漁業協同組合ＪＦしまね　美保関支所　支所運営委員長
寺本　良次　　山陰中部地区小型船安全協会　事務局長

（オブザーバー）

坂口　恒久　　境水先区水先人会　副会長

「関係官公庁」

第八管区海上保安本部　交通部
境海上保安部
中国地方整備局　港湾空港部
中国地方整備局　境港湾・空港整備事務所
中国運輸局　鳥取運輸支局
鳥取地方気象台
鳥取県県土整備部　空港港湾課
島根県土木部　港湾空港課
鳥取県境港水産事務所

3-1　ビジュアル操船実験

(1)　開 催 日：令和元年９月 30 日（月）～10 月１日（火）
(2)　場　　所：東京都　株式会社ＭＯＬマリン シミュレータ室

3-2　作業部会

(1)　開 催 日：令和元年 11 月 14 日（木）
(2)　場　　所：米子市　ＡＮＡクラウンプラザホテル米子
(3)　議　　題：
　①　操船の安全性（ビジュアル操船実験実施方案）について
　②　操船の安全性（ビジュアル操船実験結果）について
　③　係留の安全性について
　④　航行安全対策案について

4　秋田港大型客船入出港に係る航行安全調査

委員会の構成

（順不同・敬称略）

「委　員」

矢吹　英雄　　東京海洋大学　名誉教授

髙橋　　勝　　海上保安大学校　名誉教授

松田　洋和　　一般社団法人日本船長協会　副会長

高橋　福治　　秋田船川水先区水先人会　会長

西宮　公平　　秋田海陸運送株式会社　代表取締役社長

柏屋　　敬　　日本通運株式会社　秋田港支店　支店長

「関係官公庁」

第二管区海上保安本部　交通部

秋田海上保安部

東北地方整備局　港湾空港部

東北地方整備局　秋田港湾事務所

秋田地方気象台

4-1　第１回委員会

(1)　開 催 日：令和元年 10 月 29 日(火)

(2)　場　　所：秋田市　ホテルメトロポリタン秋田

(3)　議　　題：

①　大型クルーズ客船の入港計画について

②　調査・検討の計画（案）について

③　秋田港の現況について

④　航行環境について

⑤　操船に係る基礎検討について

⑥　操船の安全性について（ビジュアル操船実験方案）

4-2　ビジュアル操船実験

(1)　開 催 日：令和元年 12 月５日(木)～６日(金)

(2)　場　　所：東京都　株式会社ＭＯＬマリン シミュレータ室

５　酒田港港湾計画改訂に係る船舶航行安全対策調査

委員会の構成

（順不同・敬称略）

「委　員」

矢吹　英雄　　東京海洋大学　名誉教授
髙橋　　勝　　海上保安大学校　名誉教授
松田　洋和　　一般社団法人日本船長協会　副会長
松浦　安洋　　酒田水先区水先人会　会長
佐藤　　祐　　酒田海陸運送株式会社　取締役営業部長
阿部　　紳　　日本通運株式会社　酒田支店　酒田海運営業所長
髙橋　芳彦　　酒田共同火力発電株式会社　取締役管理部長
川口　良助　　酒田石油基地協議会　会長
佐藤　昭浩　　酒田曳船株式会社　海務監督
西村　　盛　　山形県漁業協同組合　参事
齋藤　賢作　　特定非営利活動法人　山形県小型船舶安全協会　会長

「関係官公庁」

第二管区海上保安本部　交通部
酒田海上保安部
東北地方整備局　港湾空港部
山形地方気象台
酒田市　地域創生部　商工港湾課

5-1　第２回委員会

(1)　開 催 日：令和元年 11 月 26 日(火)
(2)　場　　所：酒田市　ホテルリッチ＆ガーデン酒田
(3)　議　　題：
　①　港湾計画改訂の計画案(変更分)について
　②　航行の安全性について
　③　航行安全対策について
　④　報告書構成案について

６　秋田洋上風力発電事業計画に係る航行安全調査（海域分調査）

委員会の構成

（順不同・敬称略）

「委　員」

矢吹　英雄　　東京海洋大学　名誉教授

髙橋　　勝　　海上保安大学校　名誉教授

井上　一規　　一般社団法人日本船長協会　副会長

高橋　福治　　秋田船川水先区水先人会　会長

西宮　公平　　秋田海陸運送株式会社　代表取締役社長

柏屋　　敬　　日本通運株式会社　秋田港支店　支店長

與語　奨太　　能代運輸株式会社　専務取締役

藤田　範生　　東北電力株式会社　能代火力発電所　所長

齋藤　修市　　秋田県小型船舶安全協会　会長

「関係官公庁」

第二管区海上保安本部　交通部

秋田海上保安部

東北地方整備局　港湾空港部

東北地方整備局　秋田港湾事務所

秋田地方気象台

秋田県建設部　港湾空港課

6-1　第１回委員会

(1)　開 催 日：令和元年 12 月９日(月)

(2)　場　　所：秋田市　ホテルメトロポリタン秋田

(3)　議　　題：

①　洋上風力発電事業計画の概要について

②　調査・検討の計画（案）について

③　周辺海域状況について

④　周辺港湾等について

Ⅱ　会 務 報 告

Ⅱ－１　業務日誌抄

月　　日	内　　容
9月10日(火)	秋田県北部洋上風力発電事業計画に係る航行安全調査 第２回委員会　(秋田市)
9月26日(木)	能代港港湾計画改訂に伴う船舶航行安全対策調査　第１回委員会　(秋田市)
9月30日(月) 10月　1日(火)	境港(外港昭和南地区)大型貨物船入出港に伴う船舶航行安全対策検討 ビジュアル操船実験　(東京都)
10月　8日(火)	令和元年度日本海中部地区洋上救急支援協議会　(新潟市)
10月29日(火)	秋田港大型客船入出港に係る航行安全調査　第１回委員会　(秋田市)
11月　7日(木) ～8日(金)	令和元年度　全国海難防止団体等連絡調整会議　(東京都)
11月14日(木)	境港(外港昭和南地区)大型貨物船入出港に伴う船舶航行安全対策検討 作業部会　(米子市)
11月26日(火)	酒田港港湾計画改訂に係る船舶航行安全対策調査　第２回委員会　(酒田市)
11月28日(木)	令和元年度第２回船員災害防止連絡会議　(新潟市)
12月　3日(火)	能代港港湾計画改訂に伴う船舶航行安全対策調査　第２回委員会　(秋田市)
12月　5日(木) ～6日(金)	秋田港大型客船入出港に係る航行安全調査　ビジュアル操船実験　(東京都)
12月　9日(月)	秋田洋上風力発電事業計画に係る航行安全調査(海域分調査) 第１回委員会　(秋田市)
12月18日(水)	秋田県北部洋上風力発電事業計画に係る航行安全調査 第３回委員会　(秋田市)

Ⅱ－２　業務予定

内　　容		予　定　月　日
(1)	秋田港大型客船入出港に係る航行安全調査　　作業部会	令和２年　１月 22 日
(2)	境港(外港昭和南地区)大型貨物船入出港に伴う 船舶航行安全対策検討　　第２回委員会	令和２年　２月 13 日
(3)	秋田港大型客船入出港に係る航行安全調査　　第２回委員会	令和２年　２月 19 日
(4)	鳥取港港湾計画改訂に係る船舶航行安全対策調査 第２回委員会	令和２年　２月　下旬
(5)	日本海西部海域における簡易型ＡＩＳ普及に関する調査研究 （福井県・京都府及び兵庫県地区）第２回委員会	令和２年　２月　下旬
(6)	境港港湾計画改訂に伴う船舶航行安全対策調査 第１回委員会	令和２年　３月　上旬
(7)	秋田洋上風力発電事業計画に係る航行安全調査(海域分調査) 第２回委員会	令和２年　３月 10 日
(8)	令和元年度　第３回理事会	令和２年　３月 12 日
(9)	令和２年度　第１回理事会	令和２年　５月 20 日
(10)	会報第 129 号発行	令和２年　５月　中旬
(11)	令和２年度　通常総会	令和２年　６月　中旬

Ⅲ　海保安全情報

第九管区海上保安本部海洋情報部　監理課

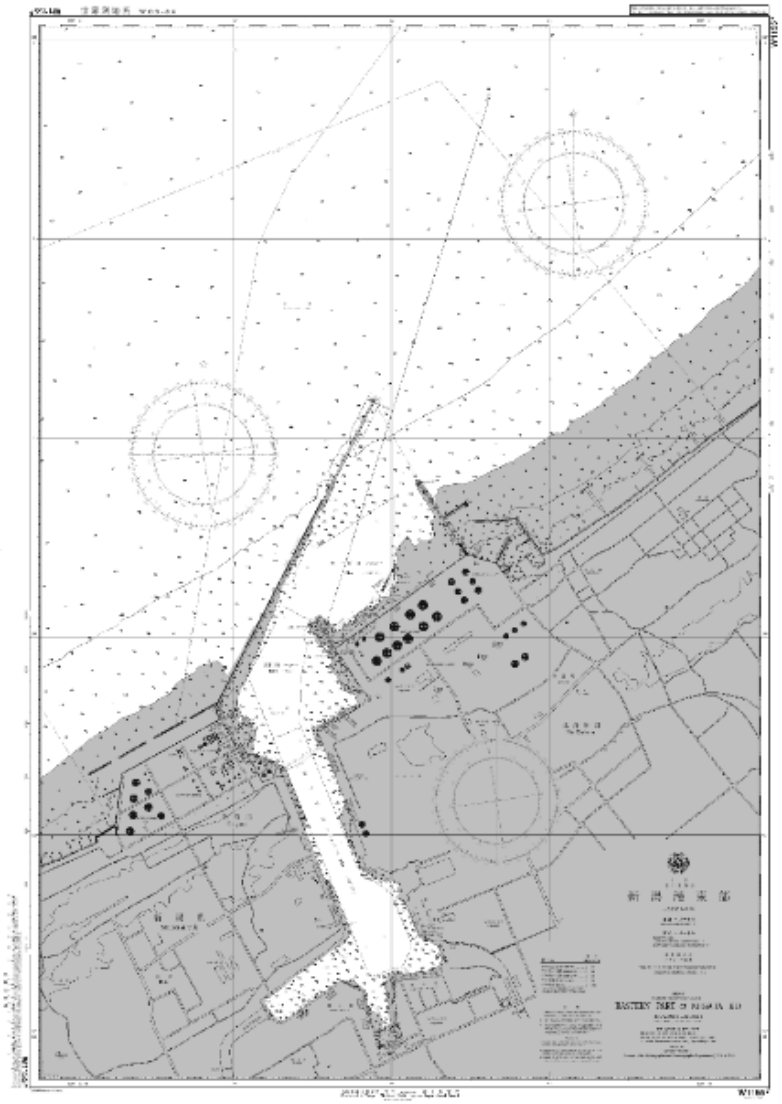
海図「新潟港東部」がリニューアル

令和元年11月７日に海図Ｗ１１５５Ｂ「新潟港東部」が刊行されました。

この海図は平成28年12月以来、約３年ぶりの改版となり、その３年の間に変わった水深、岸線、岸壁名称などの最新情報が盛り込まれています。

海図が改版されますと改版前の海図は廃版となり、航海に使用することができなくなりますのでご注意ください。

〔海図 Ｗ１１５５Ｂ「新潟港東部」〕



「海洋状況表示システム（通称：海しる）」の最新情報

海上保安庁の活動を紹介する動画が、YouTube の海上保安庁ページに掲載されていますが、その新しい動画コンテンツとして「海洋状況表示システム（通称：海しる）」を紹介する動画が掲載されました。この動画はマリンレジャーでの「海しる」の活用について紹介したもので、30 秒程度の内容となっています。今後も違うバージョンのコンテンツが追加される予定となっています。

以下のアドレスからアクセスできますので、是非ご覧ください。

https://www.youtube.com/channel/UC3yxhEkCZKaDa-SdzaWECaQ

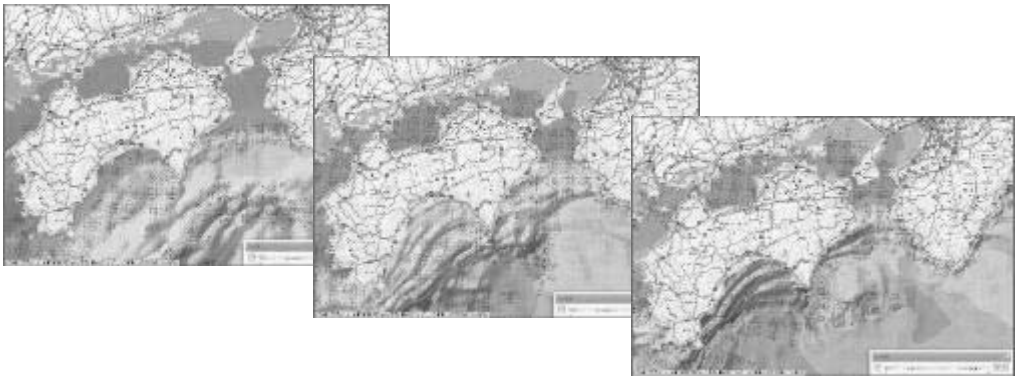
〔YouTube の海上保安庁ページの画面〕

また、前号で紹介しました「海しる」の新しいコンテンツとして、津波シミュレーションの情報が追加されましたのでご紹介します。このシミュレーションの範囲は四国～紀伊半島海域となっており、アニメーションにより広範な津波の挙動を分かりやすく確認することができます。

「海しる」は各種地図、海底地形、船舶通航量などの多様な情報の重畳や拡大、縮小、検索、表示海域の変更も簡単にできるようになっているため、津波防災の啓発等に役立てられることが期待されます。

なお、今後は提供海域が順次拡充されることになっています。

海洋状況表示システム（通称：海しる）の画面



津波の挙動が確認できます。
地震発生後、左から５分経過、15 分経過、25 分経過

出典：海洋状況表示システム（背景図は地理院タイルを使用）
モデル：津波断層モデルケース④（内閣府）

「海しる」は以下のアドレスからご利用ください。
https://www.msil.go.jp

第九管区海上保安本部交通部　安全対策課

冬季に備える ～安全な運航と海難を防ぐために～

新潟地方気象台が令和元年11月に発表した北陸地方の３ヶ月予報では、

１月：「冬型の気圧配置は長続きしないため、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ないでしょう。」

２月：「冬型の気圧配置の影響で平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。」

と大雪との予報は出ておりませんが、冬季の心構えと準備が必要となりますので紹介します。

１ 安全な運航：視界不良時の対応

日本海側では、冬と言えば降雪、場合によっては横殴りの吹雪で移動が大変困難となります。また、日本海側特有の湿った大粒の雪である「ぼた雪」により視界が非常に悪くなる時があります。このような時は周囲が真っ白となるホワイトアウト状態で目視による見張りが難しくなり危険な状況となります。

そんな場合は、

・減速する。

・見張りを増員する。

・レーダーのＧＡＩＮ、ＦＴＣ、ＳＴＣつまみを調整し、降雪によるノイズが減るように調整する。

・天気予報や気象、海象状況を再確認する。

などで安全な運航を心掛けましょう。

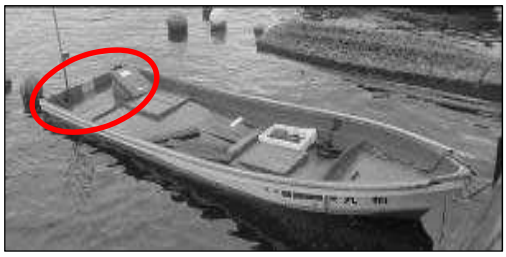
２ 浸水、転覆を防ぐ：積雪時の対応（小型船舶）

平成23年の正月、山陰地方での豪雪により346隻の小型船舶が浸水、転覆し、平成30年１月には富山県で同じような積雪によって９隻が浸水、転覆しました。

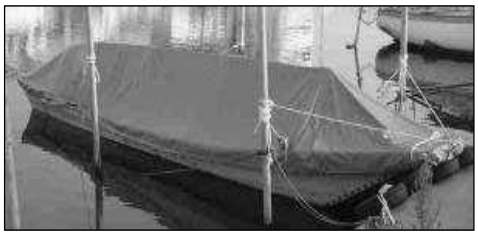
これは日本海側特有の湿った重い雪が短時間に降り積もり、陸上の交通も麻痺し、船舶の除雪に間に合わなかったなど二次的な要素もありますが、常に気象情報の把握を行い積雪が予想される場合には、早めの陸揚げやシートによる保護などの事前の積雪対策をしておきましょう。

・早めに陸揚げを行う。

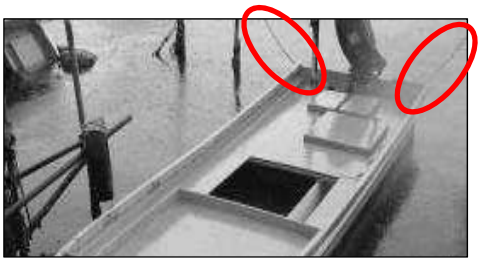
・重量物を取り外して軽くする。



・シート保護で積雪を防ぐ。



・船尾の２点係留で流されない。



もちろん除雪も大切なことですが、船上は非常に滑りやすくなり落水事故の危険があります。

救命胴衣は必ず着用し、複数名又は看視者を付けた除雪を行って下さい。

３　日頃できない点検整備：メンテナンスでリフレッシュ

冬季は海上荒天の日も多くなり、出航する日も限られてきます。こういう時こそ日常点検に加え、目の届かない箇所の点検や専門業者による整備を実施しましょう。

(1)　定期交換部品の交換

平成３１年４月に点検を行ったところインペラの劣化が確認でき、部品を手配していたのですが、交換が間に合わないまま翌５月に出航した際インペラの損傷によってエンジンのオーバーヒートを起こした事例がありました。

余裕の有る時期に消耗品の交換を行っていれば防げた事故でした。

(2)　普段目が届かない配管、配線等について再確認

プレジャーボートをフルスロットで航行中、急にエンジンが止まり、その後再起動できず航行不能となり、巡視艇によって曳航救助されるという事故がありました。

その後点検したところ、振動によってスパークプラグが外れたことが原因と判明しました。

普段の目視を中心とした発航前点検では目が届きにくい、各配管や配線等に劣化が無いか、ボルト（ナット）を含む各接続部に緩みがないか点検を確実に行っていれば防げた事故でした。

(3) 時には専門業者での点検

日頃のメンテナンスでは気が付き難い、または気が付かない点検箇所があります。時には専門業者による点検も事故を防止する一対策です。

(4) 係留索の再確認

例年、強い季節風により船が流れ出す事故も発生しています。原因を調査すると、長年係留索を交換せず劣化に伴い破断してしまうケースが大半を占めています。

係留索や係留具の状態に気を配り、古くなった物は新しい物に交換するなど、十分な強度を有しているか再確認しましょう。

4　急速に発達する低気圧（爆弾低気圧）への備え

気象庁では、中心気圧が２４時間で２４hPa 以上低下する温帯低気圧のことを「急速に発達する低気圧」（いわゆる「爆弾低気圧」）と言います。通過する際は台風並みの強風に見舞われ、時として係留索破断や浸水、転覆等の事故の発生が懸念されます。

爆弾低気圧通過が予測される場合には、船の陸揚げや、増し舫（もやい）など係留索を強化しておきましょう。

また、あて布による擦れ防止や、排水口の清掃、手入れもお願いします。

Ⅳ　寄 稿 欄

舞鶴の神様達（桑飼地区の神社）

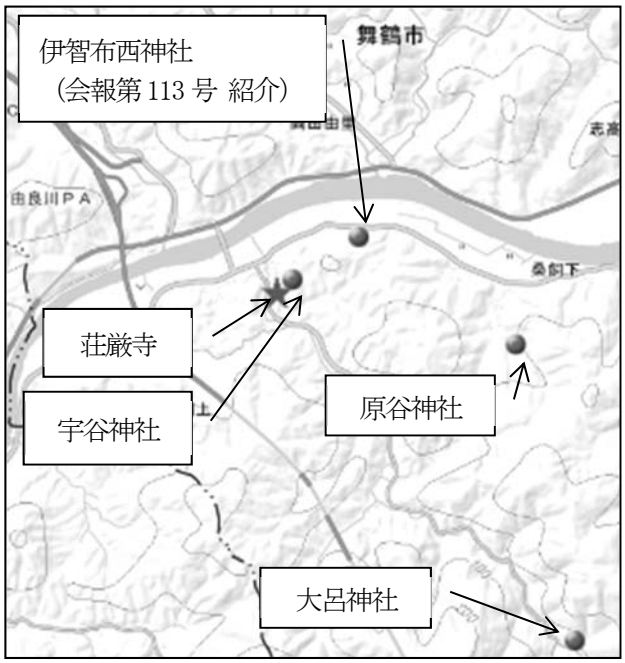
元舞鶴事務所長　山本勝眞

以前「伊智布西神社」を紹介しました。

（会報第 113 号平成 26 年 12 月発行）

この神社は舞鶴市の桑飼地区という場所にあります。「丹後太郎」の異名を持つ暴れ川「由良川」の川沿いで、舞鶴市の南西のはずれに当たります。

今回は、この桑飼地区にある幾つかの神社を紹介したいと思います。



本地図は「地理院地図(GSI Maps)」から編集

それではまず、「原谷神社」です。

舞鶴から国道 175 号線を福知山・宮津方面にむかい、由良川大橋の手前の藤津交差点を左折して、府道 55 号線を由良川沿いに上っていきますと、舞鶴市のはずれに桑飼地区があります。

「伊智布西神社」は、府道 55 号線脇にあるのですが、その伊智布西神社から約１キロメートルほど舞鶴寄りに戻ったところ（藤津交差点からは約５キロメートル）に南へ入る道があり、ここから約 300 メートルほど向かうと一軒の農家の裏手に原谷神社が見えてきます。

原谷神社全景

境内は少し広々とした原っぱのようになっていて、すぐ後ろは山に面しているのですが、多くの神社の境内がこんもりとした古木に囲まれて昼なお暗きという荘厳なイメージなのに対して、この神社は大変明るく開放的な場所に鎮座されています。

石造りの鳥居（明神型）をくぐり、石段を四段登り左に折れて本殿に向かう形になっています。そして本殿前には、一対の石灯篭と狛犬（唐獅子）がありました。

神殿は、覆屋に守られており、この覆屋は単純な流造風の木造トタン葺きになっています。

ご祭神は、奥津彦命（おきつひこのみこと）、奥津姫命（おきつひめのみこと）、火産霊命（ひむすびのみこと）（火之迦具土命（ほのかぐつちのみこと））の三柱の合祀となっています。これら三柱の神様はいずれも火に関連する神々で、特に奥津彦命、奥津姫命は竈（かまど）の神様、また火産霊命はそのものずばり火の神様です。

古代から、煮炊きのための火と竈は、食の生活に欠かせない大事なものだったに違いありません（もちろん現在でもそうですが・・・）。

しかし、また火は火事という災いを招くことで、恐れられた一面もあり、そういったことから、昔から「荒神さん」として大切に祀られてきました。

今でこそあまり見かけませんが、私の幼少のころは、台所の竈の近くに「荒神さん」のお札が掲げてありました。

読者の皆さんの中にも、同様のご記憶がある方もあるかもしれませんね。（あるいは、今でも家々によっては祀ってあるかもしれませんが・・・）

ちなみに、全国に愛宕さん、秋葉さんと呼ばれる神様が多いのですが、こちらも火にまつわる神々で、お二方は火災から家を守る、いわゆる火除けの役割を担っておられることから、荒神さんに含まれるのかもしれません。

原谷神社の境内社

境内社は、本殿に向かって左隣りに一社、鳥居と本殿の間に二社と合わせて三社が祀られています。いずれもご本殿と同様、覆屋に覆われた小さな祠で、三柱の神様は、それぞれ「若宮神社」、「毘沙門（びしゃもん）神社」、「山祇（やまづみ）神社」です。

若宮というのは、読んで字のごとく、祭神のお子神様のことなのでしょうが、どなたかはわかりませんでした。

実は、「若宮」と名のつく神社は、全国にはたくさんあり、舞鶴市にも若宮神社は５社あります。中舞鶴地区(余部上)の若宮さんのように「八幡若宮（応神天皇のお子神)」としてご祭神がはっきりしているものもあれば、そうでないものもあり、それぞれの神社で確かめるほかないようです。

毘沙門神社は、神社としてはちょっと珍しいですね。

もちろん毘沙門天(びしゃもんてん)が祭神ですが、この神様は、仏教寺院の主仏様の守護神としてよく知られています。仏像のタイプとしては「天部(てんぶ)」に分類され、もとはインドのバラモン教の諸神のお一人で、多聞天(たもんてん)とも称され、東西南北四方位のうち北方の守護神とされています。

ちなみに、東方面は「持国天」、西方面は「広目天」、南方面は「増長天」がそれぞれお護りになっておられます。

日本では仏教と習合して、四天王、弁財天、帝釈天、吉祥天などの神様が仏像としてとり入れられているようです。

山祇の神様は、全国には数えきれないほどたくさんありますね。愛媛県の大山祇神社が総本山で、もともとは字のごとく山の神様と思われますが、現在は海の神様としても崇拝されているようです。

次に「宇谷神社」です。

冒頭の伊智布西神社から西（福知山方）へ約 400 メートルほど行ったところに南側に入る道があり、左に折れて 50 メートルほど入ると桑飼下宇谷集落があります。こちらには曹洞宗のお寺「荘厳寺」というのがあり、その裏手を 100 メートルほど登った山の上に宇谷神社は鎮座されています。

宇谷神社参道

参道は、急な坂道で、鬱蒼とした杉の木立と竹に覆われた舗装のない山道を登っていくと、途中からは苔むした石段になっていて、明神型の木製鳥居をくぐるとご本殿に着きます。

宇谷神社ご本殿

木製格子状の壁とトタン葺き屋根の覆屋に守られた、覆屋内の神殿はしっかりと保存されていて、神殿階の向かって右の柱に「伊邪那岐命」と表記された木札が取り付けてありました。

ご祭神は「伊邪那岐命（いざなぎのみこと）」で、この方は、ご存じのとおり記・紀神話で、「伊邪那美命（いざなみのみこと）」とともに、万の神々を創造されたとされている神様ですね。

境内社は、向かって左に一棟三連（山の神社、大川神社、大神宮社）の祠。さらに三つの赤い鳥居をくぐって４～５メートル上がったところに、二棟の祠があり、一つは、金毘羅さんと秋葉さん、そして、もう一つはお稲荷さん、そして屋根代わりに大石を載せた一見灯篭のような祠には、愛宕さんがそれぞれ祀られていました。

境内社の「山の神」は、文字通り山をつかさどる神様ということで、あるいは大山祇の神のことでしょうか。

大川神社は、食の神様。

大神宮社は、これはよくわかりませんが、一般的に言えば、神宮という神社の格は天皇家を祀る社の称号として使われているので、その神宮とは少し違うような気がします。

奈良の桜井市に大神（おおみわ）神社といって饒速日命（にぎはやひのみこと）を祀った神社がありますので、あるいはその神社から勧請したのかもしれません。

金毘羅さんは、香川県の琴平町にある金毘羅大権現（ご祭神は大物主命（おおものぬしのみこと））。
秋葉さんは「火産霊命」。そしてお稲荷さんは、食の神「宇迦御魂（うかのみたま）（倉稲魂命（くらいねたまのみこと））」です。

最後に「大呂神社」を紹介します。

冒頭の伊智布西神社から西（福知山方）へ約 500 メートルほど行ったところに宇谷交差点（曹洞宗のお寺「荘厳寺」の近く）府道 55 号線から府道 491 号線に入り、南に向かって４キロメートルほど登ると、桑飼上地区のはずれにあたる大呂地区にいたります。

この地区は府道 491 号線区で終地点といってもいい集落で、この先にも道は伸びていましたが、ここから奥は、ほとんど車は行かないというようなところでした。

グーグル地図を開くと、この神社は、神社名を「稲荷、愛宕、山の神」と表記されていましたが、これが大呂神社です。神社名は地名をとったのでしょう。

神社の登り口は三叉路になっていて数メートル石段を上がったところに石造りの明神型鳥居があり、同じ地盤に一棟三連の脇宮（境内社）があり、ご本殿はさらに２メートルほど上で、木製覆屋に囲われて鎮座されていました。

大呂神社ご本殿

ご神殿は、木造の流造で丁寧な彫刻が施された美しい神殿ですが、残念ながら覆屋とともにかなり老朽化して痛みが激しい状態でした。

ご祭神は熊野十二社大権現とありますので熊野から勧請されたものとおもいます。

熊野十二社とは、熊野本宮大社、熊野速玉大社、那智大社の熊野三社に祀られた十二柱の神々のことをいうそうですが、詳しいことは把握できていません。

中段の境内社は、「稲荷」、「愛宕」、「山の神」の各神様の表札がかけてあり、稲荷には朱塗りの祠、愛宕には石灯篭の頭の部分、山の神には丸っこい石が祀られていました。

大呂神社境内社（中段）

ご本殿に向かって右側に一つの境内社がありましたが、ご祭神はわかりませんでした。

境内社の神々については、前述の各神社で紹介しているので省略させていただきます。

ちなみにこの稿で紹介した三つの神社名はすべて所在地の地名と一致しています。

なお、以前にも触れたことがありますが、神様の尊称には、「尊」と「命」の両方が使われています。「尊」の方をより格の高い神様にあてているようですが本稿では「命」に統一して記述させてもらいました。

今回、桑飼地区の神社の取材に当たっては、桑飼宇谷地区にある荘厳寺の村田和尚さんに、多くの貴重な資料をいただきました。参考にさせていただきました。

こころからお礼を申し上げます。

※　本寄稿のバックナンバーは、当協会ホームページ、事業紹介、会報の発行を参照。

http://nikkaikb.com/

Ⅴ　連 絡 事 項

会員名簿の変更

現在発行している会員名簿の変更です。（令和元年 12 月 20 日届出分まで）

○　指定代表者等の変更

頁	会　社　・　団　体　名	指定代表者職氏名	担当者職氏名
2	東北ポートサービス㈱	能代営業所所長 山信田　信　浩	能代営業所業務課長 小野田　義　人
7	新潟石油共同備蓄㈱	取締役総括部長 梶　原　昭　彦	環境安全課係長 後　藤　健　一
〃	日本海エル・エヌ・ジー㈱	取締役社長 武　田　眞　二	流通管理課長 長谷川　　保
9	㈱日本海洋科学	代表取締役社長 赤　峯　浩　一	技　監 中　村　紳　也

○　代表者等の変更

頁	会　社　・　団　体　名	代表者職氏名	担当者職氏名
18	北陸電力㈱七尾大田火力発電所	所　長 溝　口　忠　志	担　当 高　宮　裕　明

○　住所等の変更

頁	会　社　・　団　体　名	住　　所
6	直江津港木材輸入協会	〒942-0011 上越市港町１丁目６番 13 号

「荒れる海　見合わす勇気　持つ根気」

「無理せず航海　無理して後悔」

会　報　第１２８号

令和２年１月発行

発 行 所　新潟市中央区竜が島１丁目９番２号
公益社団法人　日本海海難防止協会
〒950－0072
電　話（025）247－8531
ＦＡＸ（025）247－0316
E-mail nikkaikb@poem.ocn.ne.jp
URL　http://nikkaikb.com/
印 刷 所　株式会社 ウィザップ